

市民・職員意識調査 結果概要

昨年実施しました、男女共同参画に関する市民・職員意識調査の結果概要は下記のとおりです。下記内容も含め、来年度の計画策定に向けて留意すべき調査項目や結果についてご意見をお願いいたします。

1 市民意識調査 (資料2「市民意識調査 調査結果報告書(案)」参照)

(1) 男女の平等意識 (11～22 ページ)

- ・「各分野において男女の地位が平等になっていると思うか」の問いに対し、すべての分野において、『男性優遇^{※1}』意識が『女性優遇^{※1}』意識を上回っている。
- ・『男性優遇』意識が高い順に、「社会通念や慣習, しきたり等」(77.6%), 「政治の場」(77.4%), 「社会全体」(72.7%) となっており、いずれも平成28年実施の前回調査よりも『男性優遇』意識が高くなっている。特に「政治の場」においては『男性優遇』意識が前回調査よりも大幅に高くなった。
- ・「平等である」割合が高い項目は、「学校教育の場」(55.7%), 「家庭生活の場」(36.3%) などがある。

※1: 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』, 「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』としている。

(2) 性別役割分担意識に関わる考え方 (23～30 ページ)

- ・「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「どちらかといえば賛成」(29.1%) が最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(26.4%), 「反対」(24.3%) の順となっており、女性と比べて男性の『賛成意向^{※2}』がやや高くなっている。
- ・前回調査よりも『反対意向^{※2}』の回答の割合が低くなっている。

※2: 「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成意向』, 「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対意向』としている。

(3) 女性が職業をもつことについて (39～42 ページ)

- ・「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい (49.1%)」が全体の5割近くを占めており、前回調査 (35.4%) と比べると14ポイント近く増加した。

(4) 夫婦間や交際相手からの暴力 (DV) について (45～53 ページ)

- ・配偶者やパートナーのいる人のDV経験 (過去5年間) は、回答者のうちほぼ7人に1人

が何らかの暴力を受けたことがあると回答している。

- ・暴力の内容は「大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」が11.2%と最も高く、その他「何を言っても無視され続けた」(2.5%)、「医師の治療が必要とされない程度の暴力を受けた」(2.1%)などが続いている。
- ・配偶者等からのDVの相談先について、「家族や親戚」(34.3%)「友人・知人」(34.3%)が高くなっているが、4割以上(41.2%)が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答している。
- ・相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思った」の割合が45.2%と最も高く、「相談しても無駄だと思った」(35.7%)、「だれにも話す気持ちになれなかった」(33.3%)と続いている。

(5) 男女共同参画の取組 (54~60 ページ)

- ・男女共同参画社会の実現に向けた市の取組などの認知状況について、6割以上の方が「見たり聞いたりしたものはない」と回答している。
- ・「見たり聞いたりしたことがある」ものは、「芦屋市男女共同参画センター」が2割、「芦屋市男女共同参画センター通信『ウィザス』」、「芦屋市男女共同参画推進条例」がそれぞれ1割を超えているものの、その他は1割未満にとどまっている。
- ・男女共同参画関連用語の認知状況は、「男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)」(54.8%)が最も高く、次いで「ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)」(50.8%)となっている。
- ・また「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」(49.3%)の認知の割合が、前回調査(37.2%)と比べると約12ポイント増加した。

2 職員意識調査 (資料3「職員意識調査 調査結果報告書(案)」参照)

(1) 男女の平等意識 (8~17 ページ)

- ・「各分野において男女の地位が平等になっていると思うか」の問いに対し、すべての分野において、『男性優遇^{※1}』意識が『女性優遇^{※1}』意識を上回っている。
- ・『男性優遇』意識が高い順に、「政治の場で」(76.8%)、「社会通念や慣習、しきたり等で」(75.0%)、「社会全体として」(65.3%)となっており、いずれも平成28年実施の前回調査よりも『男性優遇』意識が高くなっている。
- ・「平等である」割合が高い項目は、「学校教育の場で」(59.0%)、「職場の中で(賃金・昇進等)」(47.7%)、「家庭生活の場で」(38.8%)などがある。

※1:「1 市民意識調査」と同じ

(2) 性別役割分担意識に関わる考え方 (18～23 ページ)

- ・「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」(32.5%)が最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(28.6%)、「わからない」(21.4%)の順となっており、男性と比べて女性の『反対意向^{※2}』が高くなっている。
- ・前回調査よりも『反対意向^{※2}』の回答の割合が低くなっている。

※2：「1 市民意識調査」と同じ

(3) 役職への昇任の意向 (31～38 ページ)

- ・役職の職位が高くなるほど『希望しない^{※3}』と答える割合が高くなっており、「部長職」は『希望しない^{※3}』が7割近く(68.1%)に上り、すべての職位において、『希望する^{※3}』が前回調査よりも低くなっている。
- ・役職への昇任を望まない理由は、「責任が重くなるから」(49.9%)が最も高く、次いで「休日や時間外は仕事以外のことに時間を使いたい」(41.1%)、「他のライフワークを優先したい」(38.8%)、「残業や休日勤務が増えそうで嫌だ」(33.2%)の順となっている。

※3：「望む」と「どちらかという望む」を合わせて『希望する』、「望まない」と「どちらかという望まない」を合わせて『希望しない』としている

(4) 男性職員の育児休業取得における課題 (41, 42 ページ)

- ・「代替要員の確保」(60.0%)が最も高く、次いで「職場がそのような雰囲気ではない」(42.3%)、「男性自身に育児休業を取る意識がない」(36.4%)の順となっている。
- ・性別では、「代替要員の確保」は男性の割合が高くなっていますが、それ以外はすべての項目で女性の割合が高くなっている。

(5) 芦屋市DV相談室(芦屋市配偶者暴力相談支援センター)について (48～50 ページ)

- ・認知度については、「はい(知っている)」が65.2%、「いいえ(知らない)」が34.6%となっている。
- ・過去5年間に業務の中で市民からDVについて相談を受けた経験について、「いいえ」(91.1%)が大半で、「はい」が8.4%となっているが、相談を受けた際の対応では、「芦屋市DV相談室と連携し、相談につなげた」(54.0%)が最も高く、次いで「市民へ芦屋市DV相談室の情報提供を行った」(46.9%)、「芦屋市DV相談室以外の他課と連携又は情報提供を行った」(31.0%)の順となっている。

(6) 男女共同参画の取組 (51～57 ページ)

- ・男女共同参画社会の実現に向けた市の取組などの認知状況について、「芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや」(54.7%)が最も高く、次いで「芦屋市男女共同参画センター

通信『ウィザス』(42.0%)の順となっている。

- 男女共同参画関連用語の認知状況は、「男女雇用機会均等法」(63.2%)が最も高く、次いで「ストーカー規制法」(60.8%)、「ジェンダー」(60.8%)となっている。
- 認知の割合は、「ジェンダー」(60.8%)、「女性活躍推進法」(30.7%)が、前回調査より高くなったが、その他の項目では低くなっている。

以上